

# 令和7年度 かごしま青少年海外研修事業報告書

株式会社エイチ・アイ・エス 九州事業部  
事業部長 児島 敬太郎

# 1. 事業概要

## ○ 事業の目的

アジア経済圏の主要都市である上海、台北の企業視察や研修先の若い企業人等との交流を通して、国際的な視野を持ったリーダーの育成を図る。

## ○ 事業内容

### (1) 派遣先

上海、台北

### (2) 参加資格

- ・ 鹿児島県内に居住、又は鹿児島県に所在する企業等に勤務する者等（学生を含む）
- ・ 定められたテーマに基づく作文の提出があった者
- ・ 研修で得られた知識や経験を、その後の生活又は仕事に活かす意欲を有し、帰国後に研修成果を発表できる者
- ・ 事業終了後も、研修参加者や研修先等とのネットワークの維持に努めるとともに、必要に応じて、次年度以降の研修参加者へのアドバイスをを行うなど、本事業の取組に協力できる者

### (3) 参加費

上海コース 5万円 台北コース 4万円

※台北コースは、台風の影響により2泊3日の研修日程となったため減額。

### (4) 参加者募集期間

令和7年7月1日（火）～ 8月22日（金）

### (5) 参加者

上海 コース	団長 1名	昭和製菓 株式会社 代表取締役 有村 雅憲 氏	
	団員 12名	社会人 10名	学生 2名
台北 コース	団長 1名	株式会社 マルマサ 専務取締役 川原 嘉壽 氏	
	団員 12名	社会人 11名	学生 1名

## 2. 研修内容

### (1) 事前研修

#### 目的

- ・ 研修に参加するにあたり、事前に各地域の基本的な情報を習得する。
- ・ 本研修に向け、参加者の目的意識の向上を図る。
- ・ 派遣に伴う留意事項等の事前説明を行う。
- ・ 参加者間の親交を深める。

#### 《上海コース》

- 日時  
令和7年9月20日(土) 10:30 ~ 16:30
- 場所  
サンプラザ天文館 D-3 会議室
- 内容
  - ①オリエンテーション  
(自己紹介、本研修・報告会までのスケジュール確認、本事業の目的理解等)
  - ②上海 基本情報  
(時差・気候等の基本情報、政治体制、経済、外交関係、日本との関係、鹿児島県との関係)
  - ③ランチ交流会
  - ④アドバイザー(前年度研修参加者)による本研修の心得  
アドバイザー：株式会社オーリック 前迫 昇吾 氏、西日本印刷 植村 美鈴 氏
  - ⑤研修行動計画表を基にしたグループワーク  
(リーダーの選任、グループ研修時の視察先企業・業種の選定等)
  - ⑥渡航手続きに関する説明  
(上海渡航時の注意事項、パスポートに関する注意事項、海外旅行傷害保険の案内等)

#### 《台北コース》

- 日時  
令和7年10月4日(土) 10:30 ~ 16:30
- 場所  
サンプラザ天文館 E-3 会議室
- 内容
  - ①オリエンテーション  
(自己紹介、本研修・報告会までのスケジュール確認、本事業の目的理解等)
  - ②台北 基本情報  
(時差・気候等の基本情報、政治体制、経済、対外関係、日本との関係、鹿児島県との関係)
  - ③ランチ交流会
  - ④アドバイザー(前年度研修参加者)による本研修の心得  
アドバイザー：日本ガス 株式会社 工藤 翔央 氏、株式会社サナス 下津佐 拓郎 氏
  - ⑤研修行動計画表を基にしたグループワーク  
(リーダーの選任、グループ研修時の視察先企業・業種の選定等)
  - ⑥渡航手続きに関する説明  
(台北渡航時の注意事項、パスポートに関する注意事項、海外旅行傷害保険の案内等)

## (2) 本研修（現地派遣）

### 《上海コース》

- 日時  
令和7年10月28日(火) ～ 10月31日(金)
- 日程

日付	研修内容
10月28日 (火)	移動 鹿児島空港 - 上海 浦東国際空港 (中国東方航空) 現地若手企業人との意見交換会 - ①
10月29日 (水)	グループ研修 (企業視察等) - ② 現地企業等を全員で午前1企業、午後からグループに分かれて2~3企業訪問する。 午前中 : NX国際物流(中国)有限公司 Aグループ: 上薬鈴謙滬中(上海)医薬有限公司、公益社団法人鹿児島県特産品協会 上海駐在事務所、合馬鮮生(アリババスーパーマーケット) Bグループ: 上海通用汽車有限公司、百度Apollo Park
10月30日 (木)	個人研修 (企業視察等) - ③ 参加者が各自で研修先を選定し、自由行動で実施する。
10月31日 (金)	移動 上海 浦東国際空港 - 福岡空港 (中国東方航空) 博多駅 - 鹿児島中央駅 (新幹線)

- 内容
  - ①意見交換会  
現地若手企業人等との意見交換会を通じて、同世代の海外企業人の考え方や文化の違いを知り、参加者の視野を広げる。

#### 《現地参加者所属業種》

NX国際物流(中国)有限公司、キャストグローバルコンサルティング、株式会社スズケン、Nevegy、鹿児島銀行上海駐在員事務所、鹿児島県上海事務所、東京海上日動火災保険(中国)有限公司、上海北外滩金輝索菲特酒店、中宏人寿保险有限公司、美淑(上海)体育服务有限公司、中国工商银行

## ②グループ研修（企業視察等）

現地企業等を全員で午前1企業、午後からグループに分かれて2~3企業訪問し、企業の事業紹介や施設見学、意見交換等を行った。

### 【企業視察先及び研修成果等】

#### 《NX国際物流(中国)有限公司》

NXグループ（旧・日本通運グループ）の一員として、国際物流事業を展開する企業。航空・海上輸送をはじめ、通関、倉庫、輸出入業務など幅広い物流サービスを提供。世界各国に広がるネットワークを活かし、グローバルなサプライチェーンを支える。

##### <Aグループ>

###### 自動化の進展

- ・物流の現場を見学し、作業効率の高さやロボット導入などにより、品質管理・ピッキングの自動化に驚いた。

###### スピード感

- ・中国ならではのスピード感と実行力を実感した一方で、正確性や品質を重視する日本企業らしさも感じた。

###### 現地化の重要性

- ・強みを活かしつつ現地に馴染む「現地化」の重要性を感じた。
- ・中国と日本、それぞれの視点を掛け合わせて新たな価値を創出していると感じた。

##### <Bグループ>

- ・中国の物流はスピードが最重要視されるが、デメリットもある。その中で「高品質」で勝負されていることを知ることができた。
- ・海外だからこそ「信頼」を得ることが重要であると考え、従業員の教育に力を入れることに驚いた。
- ・AGV（自動搬送ロボ）の導入で自動化・省人化しながらも、高品質を提供されていた。

#### 《上薬鈴謙滬中(上海)医薬有限公司》

医療用医薬品を中心に、全国の医療機関・薬局へ安定供給を行う医薬品卸企業。高度な物流・品質管理体制を強みとし、医療現場を支えるインフラを担っている。近年はDXやデータ活用にも注力し、持続可能な医療体制の構築を目指している。

##### 品質を支えるオペレーションとDX活用

- ・医薬品が非常に厳格な管理体制のもとで扱われていることを実感
- ・温度管理、コールドチェーン、先入先出の徹底など高い品質管理レベルを海外でも実施していることを知った。
- ・緊急時にも対応できる迅速な配送体制が印象的だった。
- ・在庫管理や仕分けにおけるAI・DX活用から効率化を学んだ。

##### 営業スタイル

- ・スピード感のある海外の取り組みを取り入れる可能性を感じた。
- ・高い視座で次の一手を考える姿勢を知ることができた。

### 《公益社団法人鹿児島県特産品協会》

上海を拠点に、鹿児島県の特産品や食文化のPR・販路開拓を行う。現地企業や流通事業者と連携し、鹿児島産品の認知向上と輸出促進を支援している。展示会や商談、情報発信を通じて、鹿児島と中国をつなぐ役割を担っている。

#### 海外でのPR手法

- ・鹿児島魅力を、多角的な手法でPRしている。
- ・中国における輸入規制は非常に厳しく、対象となる特産品限定情報の伝え方・見せ方が重要。
- ・旅行会社へのセールスも重要なPR手法であることを知ることができた。

#### SNS発信強化

- ・中国でもSNSが主要な情報収集手段。中国の方の流行や人気の収集、商品の発信に活用されていた。

### 《合馬鮮生(アリババスーパーマーケット)》

アリババグループが展開する、オンラインと実店舗を融合した次世代型スーパーマーケット。アプリ注文と即時配送を強みとし、データとITを活用した効率的な店舗運営を行っている。中国の最新消費動向を反映した、小売モデルの代表的存在である。

#### 物流のスピード感

- ・天井レールを活用した自動搬送により出荷準備が効率化されている現場を見ることができた。
- ・施設外で電動バイク配達員が待機、即時配送体制が構築されておりスピード感を感じた。  
※海鮮も水槽から宅配。
- ・高速物流が特別ではなく日常として定着している点が日本とは異なる。
- ・漢方など健康志向を感じる商品ラインナップも日本とは異なる点だった。

### 《上海通用汽車有限公司》

中国最大級の自動車製造企業の一つで、中国の上海汽車集団(SAIC)とアメリカのゼネラルモーターズ(GM)が設立した合弁会社。最新の製造設備を活用し、高品質な車両の安定供給を行うとともに、ソフトウェア技術や自動運転技術の開発を強化している。

- ・日本ではあまり見ることができない工場の規模と効率性に圧倒された。  
※1日あたり500~1,000台を生産することができる規模。
- ・製造ラインが立体的かつ開放的で、効率化のみではなく作業の可視性や安全性が高い上、至るところにロボット技術が導入されており、効率化・省力化のレベルの高さを知ることができた。
- ・運転試験で出た排気ガスのろ過システムも導入され、生産性を求めるのではなく、環境へも配慮されていることに驚いた。

### 《百度 Apollo Park》

百度(Baidu)が運営する社会実装するための自動運転技術研究施設。技術の展示や研究だけでなく実際に公道を走行する自動運転車の運用を行っており、高い自動運転技術を視察することができる。

- ・日本の公道では見ることができない完全自動運転技術を実際に見て、体験することができた。自動運転技術は、レベル0~5までの段階に分類されており、中国では現在、「レベル4」の自動運転が実用化されていることは、実証を社会に出す『スピード』に差があると考え。一方で、安全面を重視する日本の良さも考える機会となった。

### ③個人研修（企業視察等）

参加者が各自で研修先を選定し、自由行動で実施した。

#### 【主な視察先及び研修成果等】

《信金中央金庫 上海駐在所、鳥元レストラン、泡盛・焼酎BAR酒友》

目的：上海の中小企業の特性と金融機関の在り方について学び、今後の業務に活かす。

#### 主な内容

信金中央金庫 上海駐在所

- ・主な業務内容、取引先への支援方法、取引先の方の考え方等を学ぶ

鳥元レストラン

- ・中国国内の飲食業界の動向、雇用について

泡盛・焼酎BAR酒友

- ・中国で日本の酒を提供する店舗を構えたきっかけや現状について

#### 学び

自身の知識や経験を他者に言語化できる能力の重要性や、日本とは異なる判断から行動に移すまでのスピード感（判断力・行動力）に関する話を直接聞くことができた。さらに、日本以上に競争力やハングリー精神あふれる様子を見ることができ、大切にしないといけないと考えた。

《上海船場、JTB上海支店》

目的：選ばれる施設づくりと国際都市からの学びを得る

- ・幅広い世代、大型クルーズ船機構によるインバウンド需要に対して、「また訪れたい」と思える魅力ある施設運営を学ぶ。
- ・多様な文化と急速な変化・成長を遂げる上海から視野を広げる考え方を学ぶ。

#### 主な内容

上海船場

- ・空間の使い方や「ライブ感」の演出、徹底した利用者目線

JTB上海支店

- ・日本企業が一体となった日本の魅力発信、中国市場に合わせたSNSを活用した情報配信

#### 学び

固定概念にとらわれず挑戦する大切さを学ぶとともに、相手国の国民性や需要を深く分析し、日本食への関心の高さといった強みを活かすことで、広い視野からお客様の期待に応える発想やPRの重要性を実感した。

<今後の業務に活かしていくこと>

#### ①ターゲットを意識した施設運営

- ・来館者の年齢層
- ・利用目的
- ・時間帯ごとの客層
- ・イベント、催事への関心度の分析

#### ②導線・空間の見直し

- ・初めて来館された方の視点
- ・外国人観光客の視点
- ・案内標識の配置場所の見直し

#### ③インバウンド対応

- ・食に関するイベント
- ・飲食店店舗との連携企画
- ・外国人観光客へ向けた情報発信の工夫

《上海博物館、鹿児島県上海事務所、上海市内小売店》

目的：自分自身の変化、中国を知ることで自身の接客に活かす、自社の海外進出の現状を知る

主な内容

上海博物館

- ・中国文化や観光施設の展示方法を知る

鹿児島県上海事務所

- ・鹿児島県と中国の関係性、貿易品として取り扱われている物品、今後の方向性を学ぶ

上海市内小売店（APIO・city super・高島屋・上海久光百貨店）

- ・日本の物品がどの程度取り扱われているか学ぶ

学び

中国と日本の文化や考え方の違い、特にスピード感や対外的な意識の差を実感した。多様な民族と複雑な文化を持つ中国を実際に目にして、自分自身が不足していると考えるとともに、今後の成長に活かしていきたい。今後は、来客の多い国々の多様な文化や言語への理解を深めるためにも勉強する必要があると感じた。

《森ビル上海、Ramal中国、みずほ銀行中国、日本航空上海支店、行楽CHINA》

目的：日系企業・中国企業より、文化や制度が異なる地域でも選ばれ続ける強みを知り、鹿児島で体現する

主な内容

森ビル上海、Ramal中国、みずほ銀行中国、日本航空上海支店、行楽CHINA

学び

①スピードが価値

早さ＝満足度、結果が重視と考え、完璧な状態よりも即提供することや迅速な情報提供が重要なことから、様々なツールを活用し問題解決等を進める。

②現地目線と情報配信の重要性

訪日マーケティングにおいて需要を的確に捉えるため、中国人スタッフの採用や変化する需要に即応えて情報配信、商品提供を行うことが重要である。

<鹿児島で体現したいこと>

スピードと丁寧さ(品質)のバランスを大切に、変化する世の中の需要に応えるため変化を前提とした提案を行う。

### 《ANA上海支店 空港所》

目的：空港でのハンドリング業務と人材育成について学ぶ

#### 主な内容

上海浦東国際空港の業務（チェックインカウンター業務、自動手荷物預機の稼働状況）  
上海支店内での多文化共生に関する取り組み（研修プログラム等の内容ヒアリング）

#### 学び

中国人スタッフに対して、日本企業としてのマインドを持ってもらうための研修プログラムやチームビルディングを行うための取り組みを積極的に行っていたことが印象的だった。外国人スタッフの採用を進める際に、取り入れたいと思う話を聞くことができた。意見をはっきりと述べる方が多い中で、発言しやすい環境を作ること自身役割であると考えている。

### 《独立行政法人 日本貿易振興機構 上海事務所、鹿児島県上海事務所》

目的：海外展開支援の取組を学ぶことで海外展開に挑戦する中小企業をサポートできるようになる

#### 主な内容

独立行政法人 日本貿易振興機構（ジェトロ）上海事務所

- ・日系企業の海外進出支援について知る。

鹿児島県上海事務所

- ・鹿児島県の知名度、特産品のブランド力向上に関する取り組みについて知る。

#### 学び

ジェトロをはじめとする支援機関による海外展開の支援体制は大変充実していることを知ることができた。今回訪問した支援機関に加えて、帰国後にその他の支援機関の支援取組についても調査した結果、様々な支援機関が多岐にわたる支援メニューを取り揃えていることや、実際に渡航したことで、上海に進出する上でのメリット・デメリットの両方を知ることができ、自身の業務に役立つものとなった。また、企業単独で海外進出するには限界があることから、県全体として海外進出を促進していくことが重要であると考えている。

## 《台北コース》

- 日時  
令和7年12月16日(火) ~ 12月18日(木)  
※台風の影響により、当初予定していた11月11日(火)より延期し、2泊3日の日程にて実施。
- 日程

日付	研修内容
12月16日 (火)	移動 鹿児島空港 - 桃園国際空港(台北) (チャイナエアライン) 現地若手企業人との意見交換会 - ①
12月17日 (水)	個人研修 (企業視察等) - ② 参加者が各自で研修先を選定し、自由行動で実施する。
12月18日 (木)	移動 桃園国際空港 (台北) - 鹿児島空港 (チャイナエアライン)

- 内容
  - ①意見交換会  
現地若手企業人等との意見交換会を通じて、同世代の海外企業人の考え方や文化の違いを知り、参加者の視野を広げる。

### 《現地参加者所属業種》

鹿児島銀行 台北駐在員事務所、日商松田産業股份有限公司 台湾分公司、台湾邁爾仕管理顧問有限公司、台湾全農國際股份有限公司、台北化学工業股份有限公司、石峰印刷品有限公司、日商西村化工産業股份有限公司、淡江大学、文曄科技、安葆國際實業股份有限公司、Ufispac、9IAPP

## ②個人研修（企業視察等）

参加者が各自で研修先を選定し、自由行動で実施した。

### 【主な視察先及び研修成果等】

《Daigasガス&パワーソリューションズ株式会社 台湾支店、国立台湾師範大学》

目的：台湾のエネルギー情勢及び関連市場と国際的な人材交流に関する調査

#### 学び

台湾の市場に合わせた事業を展開し、地政学リスクに備えた経営を行っていることができた。また、社内の組織風土についても伺うことができ転職前提のキャリア観は日本にはない考え方だった。国立台湾師範大学では、留学生の受入体制を増やし、そのまま台湾での就職を促し優秀な人材を確保するための取り組みの他、実際の留学生からも話を聞くことができた。この研修をきっかけに中長期的な視野を持つ人材になろうと思う。

《コンビニエンスストア、スーパーマーケット、かき氷・アイス専門店》

目的：台湾アイスクリームの市場動向と商品特徴の調査

#### 学び

日本よりも暖かい環境から氷菓・かき氷文化が日常に根付いており、フルーツや素材感を前面に出した商品が多く、原材料そのものの味を大切にしている商品が多かった。その中で日本のアイス製品や原材料が高く評価されていることから、自社製品への可能性を感じた。今後の業務では、多品種、季節商品に対応できる製造環境づくり等に取り組んでいきたい。

《鹿児島銀行 台北駐在員事務所、国立台湾大学、台北日本人学校》

目的：日常得ることができない学びを体感し「多角的な視野」に磨きをかける

#### 学び

輸出・輸入規制が厳しい台湾において、県内企業の台湾進出の支援を行う現場の声や台湾での働き方などを知ることができた。また、学習環境も整っており学生の学習意欲が高く、授業以外でも学ぶ姿が多々見られ、視察時には学生から声をかけられる場面もあり、学内でも多文化交流ができる環境であった。自身も短期留学にチャレンジし、台湾との交流を深めるイベントの企画や活動に取り組んでいきたい。

《中山身障社區長照機構（日間照顧）、真福之家》

目的：台湾の障がい者支援の現場をみて、鹿児島の障がい福祉と比較する

#### 学び

日本では、切れ目のない支援や障害の有無に関わらない共生社会の構築、地域全体で支える仕組みづくりといった課題がある中で、既に台湾では取り組みが進んでいるように感じた。施設を見学したことで、支援の質は「人の余裕」に左右されることや多職種連携と共生の視点が不可欠であることに改めて気づき、今後は利用者が役割を持ち、一人の職員が抱え込まずチームで支える体制を作っていきたい。